

張 詩晨 氏の学位論文審査の要旨

論文題目

地域住民のライフスタイルの評価とそれに関与する生活環境因子の相互関連性
(Interrelationship between lifestyles and lifestyle-related factors in peoples living in local district of Japan)

『研究背景と目的』現在日本ではライフスタイルの改善、すなわち1次予防に視点を置いた健康づくり運動が市町村を単位として進められている。熊本県植木町は、住民が自主的に取り組む健康づくり運動を趣旨とする健康増進計画の策定を進めている。本研究では植木町住民のライフスタイルの様態とそれを規定する健康・福祉に関する地域生活・環境因子との相互関連性について疫学的解明を試みた。

『研究方法』地域住民代表50名で構成されるグループを編成しグループインタビューの形式で、健康、福祉、生活、環境に関する地域住民の思い、要求、意欲、能力、資源を抽出し得られたデータをK.J法により、「健康・福祉に関する地域生活・環境因子」に関する質問項目として18項目を設定した。ライフスタイルの評価ツールとして日本語版HPLP-II(魏ら、2001年)を採用し、フェースシートを加えた質問調査表:「植木町健康及び福祉に関する実態調査表」を開発した。次に植木町民のライフスタイルの様態とそれを規定する地域生活・環境因子の相互関連性を解析した。植木町の男女(18歳~64歳)3141人を無作為抽出し、自記式郵送法による住民調査を実施した。ライフスタイル総合評価(HPLP-II総合:52項目の平均値)および各サブ尺度と5因子の地域生活・環境因子のスコアを算出し、年齢別(高年群:50~64歳、若年群:18~49歳)、性別(男、女)にクロス集計し、Bartlett test、Kendall rank testによる解析、重回帰解析および共分散構造分析を行った。

『結果と考察』回収数は1270(回収率40.4%)で、記載不備の94名を除いた1176名を今回の解析対象者とした。地域生活・環境因子の18項目は「社会的支援」、「健康認識」、「保健・医療・福祉サービス環境」、「健康行動」、「主観的健康感」の5つのカテゴリーで構成されていた。本調査表におけるクロンバック- α 信頼係数は高く「HPLP-II」、「健康及び福祉に関する生活・環境因子」共に高い内部統一性があった。HPLP-IIのスコアについては、(1)女性は男性に比して、「HPLP-II総合」($p<0.000$)、「健康意識」($p<0.000$)、「精神的成長」($p=0.005$)、「人間関係」($p<0.000$)、「栄養」($p<0.000$)、「ストレス管理」($p<0.000$)のスコアが有意に高く、「身体活動」($p=0.941$)のスコアが低値を示した。(2)高年群(50~64歳)は若年群(18~49歳)に比して、「健康意識」($p<0.000$)と「栄養」($p<0.000$)のスコアが有意に高く、「精神的成長」($p=0.005$)と「人間関係」($p<0.000$)のスコアが有意に低値であった。(3)HPLP-II総合と「主観的健康感」には有意な正の相関($r=0.145$, $p<0.001$)が認められた。(4)HPLP-II総合スコアは機能/職種集団別で異なっていた。(5)HPLP-IIを規定する地域生活・環境因子の構造も男女において有意な寄与因子が異なった。(6)主観的健康感を規定する地域生活・環境因子の構造も男女で異なった。(7)「地域生活・環境因子」は「ライフスタイル」に強く関与し、良好なライフスタイルを通じて「主観的健康感」の向上につながるベクトルが示唆され、共分散構造分析により適合性が検証された。

『結語』ライフスタイルは主観的健康感と相関し、女性が男性に比し、高年群が若年群に比し良好な傾向を示した。ライフスタイルを規定する地域生活・環境因子は男女ともに「健康認識」が最も強く、ついで「保健・医療・福祉サービス環境」、「社会的支援」であった。「地域生活・環境因子」は、「ライフスタイル」に強く関与し、良好なライフスタイルを通じて「主観的健康感」の向上につながるベクトルを示すことが明らかにされた。植木町における健康増進計画の骨子は、性、年齢、機能/職種集団のそれぞれの特性を考慮して策定を進めるべきであることが示唆された。審査会では3名の審査委員から、異なる文化におけるHPLP-IIの妥当性と想定される結果の差異、健康感と介護必要性の関連、健康以外のQOL資源因子、健康行動と主観的健康感の相互関係、64歳以下という対象者の年齢設定、回答率の十分さなど多数の質問が出されたが、学位申請者からは概ね適切な回答が得られ、医学博士の学位に値する研究論文であると判断した。

審査委員長 生命倫理学分野担当教授

浅井 篤

審 査 結 果

学位申請者名： 張 詩晨

分野名： 環境保健医学

学位論文題名：

地域住民のライフスタイルの評価とそれに関する生活環境因子の相互関連性
(Interrelationship between lifestyles and lifestyle-related factors in peoples living in local district of Japan)

指導： 上田厚 前教授

加藤貴彦 教授

判定結果：

Ⓐ

不可

平成22年10月 1日

審査委員長 生命倫理学分野担当教授

浅井 篤 印

審査委員 神経精神科学分野担当教授

池田 亨 印

審査委員 保健医学担当教授

岸川 秀樹 印